

第3学年2組 国語科学習指導案

児童 男子14名 女子15名 計29名
指導者 吉田 英彰

- 1 単元名 場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう
学習材 「ちいちゃんのかげおくり」 吉田 英彰（光村図書3年下）

《付けたい力》

- ◎ 場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができること。（読ウ、エ、オ）
- 感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができること。（伝国イ（ア））

想像して読んだことを通して、ちいちゃんへのお手紙を書く。

2 単元について

(1) 児童について

「C読むこと」の指導事項ウの力を付けることをねらった単元としては、「きつつきの商売」「もうすぐ雨に」があり、叙述をもとに場面の移り変わりに注意して、登場人物の性格や気持ちの変化、情景を想像して読むことを経験している。これまでの学習を通して、登場人物の性格や気持ちの変化を捉えることができているが、場面の移り変わりを捉えることが充分ではない。

「C読むこと」の指導事項エ、オに関連する単元としては、「こまを楽しむ」があり、こまの仕組みや遊び方を本文から引用して、やってみたい訳を書いた経験がある。物語においても、引用した本文をもとに心に残ったことを書く経験が必要である。

(2) 学習材について

「ちいちゃんのかげおくり」は、一行空きで場面が分けられており、出来事や情景から場面の移り変わりが捉えやすい学習材である。また、情景の描写に気をつけて読み、文を引用したり、場面をまとめたりしながら感想を書くのに、ふさわしい作品である。同世代の主人公に共感しつつ、現代の自分の境遇と比較しながら読み進めさせたい。感想文を書く際は、根拠となる本文を引用し、自分の考えをまとめていく。

(3) 指導について（研究内容との関わり）

① 追究することで自分の考えが広がったり深まったりする課題の設定

感想文を書くことが難しいと感じている児童が多い。この課題を解決するためには、人物の行動、情景、会話に着目して場面の移り変わりを捉えることと感想文を書くことの足場かけが必要である。「ちいちゃんのかげおくり」では、読み深めたあとに感想文を書くという言語活動を設定することで、人物の行動、情景、会話に即した読み取りを意識させ、主体的に読み深めていくことができるようにしたい。ちいちゃんに手紙を書くという設定をすることで、相手意識をもたせ、感想を書きやすくさせたい。

② 自分の考えと比較し話したくなる対話の充実

人物の行動、情景、会話がどう変わったのかという視点で場面を比較することで、場面の移り変わりや登場人物の気持ちについて自分の考えを持たせたい。友達の話を書くときも、自分の考えと比較し、似ているところと違うところに着目させたい。対話の場面では、自分の考えを発表して終わることが多い。同じところは共感したり、曖昧なところや自分の考えと違うところは質問したりして対話を充実させていく。

③ 自分の考えと友達の考えをつなげて学びを自覚する振り返りの工夫

振り返りを書く際は、友達との学びを通して、自分の考えが確かなものになったか、どのようなところが深まったか、広まったか、新たな疑問が浮かんだなどの視点を意識させる。

3 単元の指導目標

- 場面の移り変わりに着目して読み、進んで感想を書こうとしている。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 場面の移り変わりに着目し、場面の様子や登場人物の心情を想像しながら読むことができる。 【読むこと】
- 本文を引用したりまとめたりして、文章の叙述に基づき、感想文を書くことができる。 【読むこと】
- 感想を交流する中で、一人ひとりの感じ方の違いに気づくことができる。 【読むこと】
- 作品中の多様な表現や感想を表すのに適切な言葉があることに気づくことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想文の書き方に関心をもち、学習計画を立て、進んで感想を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述から場面の移り変わりを捉え、登場人物の心情を想像して読んでいる。(読ウ) ・ どの部分についての感想か、引用したりまとめたりして文章の構成に気をつけながら感想文に表している。(読エ) ・ 感想や書き方の違いに気づいている。(読オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動作を表す言葉の多様性について理解している。 ・ 感想を表すのに適切な言葉があることに気づいている。(言イ(ア))

5 単元の指導計画・評価規準 (全11時間)

次	学 習 活 動	○主な指導上の留意点 ◆評価規準 <評価方法>
一	① 題名から物語を想像する。 ・ 範読を聞いて、あらすじをつかみ、初発の感想を書く。 ・ 意味調べをする。	○ あらすじをつかませたうえで、第2次の学習に進ませる。 ◆ 物語のあらすじを捉えて、初発の感想をもっている。 【読】 <学習シート>
	② 感想文を書いた経験について話し合い、書くときに気をつけることを出し合う。 ・ 場面分けをする。 ・ 学習計画を設定し、学習計画を立てる。	○ ちいちゃんへの手紙を書くために、本文の場面をしっかりと読むことを押さえさせる。 ◆ 感想文の書き方に関心をもち、進んで学習計画を立てている。 【関・意・態】 <発言・学習シート>
二	③ 第一場面 家族みんなで「かげおくり」をしたときの状況やちいちゃんの心情を想像して読む。	○ 場面ごとに出来事がどのように展開しているかを確認させる。 ◆ 場面の様子や登場人物の心情を想像して読んでいる。 【読】 <発言・学習シート>
	④ 第二場面 ちいちゃんが家族と離れてしまったときの状況や心情を想像して読む。	
	⑤ 第三場面 ちいちゃんが家族を待ち続けるときの様子や心情を想像して読む。	
	⑥ 第四場面 たったひとりで「かげおくり」をするちいちゃんの心情を想像して読む。 <本時>	

	<p>⑦・ 第五場面を読んで、場面の役割について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語を読んで、心に浮かんだことを話し合う。 ・ 動作を表す表現に着目する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場面の役割や働きについて押さえさせる。 ○ 第3次の感想文につなげる。 ○ p.24「言葉」を参照させ、多様な表現に着目させる。 ◆ 場面の役割を捉えている。 【読】＜発言・学習シート＞ ◆ 心に浮かんだことを挙げている。 【読】＜発言・学習シート＞ ◆ 動作を表す言葉の多様性について理解している。 【言】＜発言・ノート＞
三	<p>⑧・ ちいちゃんへの手紙の書き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番心を打たれた場面についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「初め」「中」「終わり」の構成を考えさせる。 ◆ どの部分についての感想か、引用したりまとめたりして表している。 【読】＜学習シート＞
	<p>⑨⑩ ちいちゃんへの手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いちばん心を打たれた場面について、本文をまとめたり引用したりさせる。 ○ 「初め」「終わり」を工夫するとともに、「中」とつながるように考えさせる。 ◆ 物語から受けた自分の感想が明確になるように文章を構成している。 【読】＜学習シート＞
	<p>⑪・ ちいちゃんへの手紙を読み合って交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感想や書き方の違いを交流する。 ◆ 感想や書き方の違いに気づいている。 【読】＜学習シート＞ ◆ 感想を表すのに適切な言葉があることに気づいている。 【読】＜学習シート＞

6 本時の指導

(1) 目標

たったひとりで「かげおくり」をした場面の様子を捉え、ちいちゃん的心情を想像して読む。【読ウ】

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 <評価方法>
1 学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かげおくり」の場面について読み取っていくことを伝える。
2 本時の学習課題をつかむ。	
ちいちゃんは、「かげおくり」で家族に会えて幸せだったのだろうか。	
3 学習の見通しを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一場面と第四場面を比較し、場面の様子で同じところと変わったところに注目させる。

<p>4 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 四の場面を音読して、内容を把握する。</p> <p>(2) 二つの「かげおくり」の同じところを確認する。</p> <p>(3) 二回目の「かげおくり」で変わったところにサイドラインを引く。</p> <p>(4) 全体で確認をする。</p> <p>(5) ちいちゃんは、「かげおくり」で家族に会えて幸せだったのか自分の考えと理由を書く。</p> <p>(6) 考えを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉音読 ・ 全体で確認をする。 ・ 一回目の「かげおくり」の紙板書 ・ 何に着目して場面を比較したらよいかを確認する。 だれと「かげおくり」をしたのか、ちいちゃんの気持ちの変化、「かげおくり」をしたあとの様子 ・ 叙述を示しながら、二回目の「かげおくり」ではどう変わったか確認させる。 ・ 黒板に構造的にまとめていく。 ・ サイドラインを引いたところを元に考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ たったひとりで「かげおくり」をした場面の様子を捉え、ちいちゃんの心情を想像して読む。 【読む】<発言・学習シート></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発表を自分の考えと比較しながら聞くことで、考えを広げたり深めたりさせる。
<p>5 本時学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を通して考えたこと、友達との学びを通して気づいたこと、自分の考えが深まったことなどの視点で振り返りを書かせる。
<p>6 次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、第五場面を学習することを伝える。

(3) 評価

<p>評価規準 <評価方法></p>	<p>◆ たったひとりで「かげおくり」をした場面の様子を捉え、ちいちゃんの心情を想像して読む。 【読む】<発言・学習シート></p>
<p>記述例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ たったひとりの「かげおくり」だったけど、もう会えないと思っていた家族と会えたから幸せだったと思う。 ・ 「かげおくり」の中だったけど、また家族一緒になれたから幸せだったと思う。 ・ たったひとりの「かげおくり」はさびしいから、幸せではなかったと思う。 ・ 本当は、また「かげおくり」を家族一緒にしたかったと思うから、幸せではなかったと思う。